

問 C. 公共測量におけるセミ・ダイナミック補正について、次の各問に答えよ。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

問 C-1. 次の文は、セミ・ダイナミック補正について述べたものである。 ～

に入る最も適当な語句を語群から選び、それぞれ解答欄に記せ。

日本列島は四つの の境界上に位置し、 運動に伴う地殻変動が日本全国で絶えず生じており、基準点の相対位置が徐々に変化し、基準点網のひずみが蓄積する。

日本列島の平均的な相対位置の変化量は、年間 0.2 ppm (10 km で 2 mm) 程度である。電子基準点のみを既知点として GNSS 測量機を用いた基準点測量を行う場合は、既知点間の距離が ため、地殻変動によるひずみの影響を考えると、新点の成果と近傍の基準点の成果との不整合が生じることになる。

セミ・ダイナミック補正では、測地成果 2011 の基準日 () における測量成果に、全国 (一部離島を除く) を対象として国土地理院が提供している補正パラメータから求めた補正量 (地殻変動補正量) を , 測量を実施した時点 () における座標値に変換する。

この座標値に基づき、測量を実施した時点 () における新点の座標値を求め、補正パラメータを用いて測地成果 2011 の基準日 () における座標値に変換し、測量成果とする。

語群

海流 加えて 元期 減じて 後期 今期 前期 長い
プレート マントル 短い

〈次のページに続く〉